

小学校学力調査

(1) 実施状況及び集計結果

【小学校調査】 実施校数 233 校 小学校第5学年

実施児童数

学力調査Ⅰ	8,396名
学力調査Ⅱ	8,397名
学習状況調査	8,400名

正答率

分類	区分	県平均正答率(%)
学力調査全体		63.0
出題形式別	選択	74.3
	短答	64.3
	記述	47.9
学力調査Ⅰ	国語	70.8
	算数	61.5
学力調査Ⅱ	大問1	52.5

問題別正答率

学力調査Ⅰ 国語	出題 形式	知識・ 技能	活用	出題のねらい	正答率 (%)
1	一 記述		●	理由や事例を挙げて話を構成することができるかどうかをみる。	73.0
	二 短答	●		第4学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができるかどうかをみる。	75.6
	三 選択	●		言葉の抑揚や強弱に注意して話すことができるかどうかをみる。	74.5
	四 選択		●	必要なことを質問しながら話を聞くことができるかどうかをみる。	85.0
2	一 選択		●	段落相互の関係に注意して、文章の構成を考えることができるかどうかをみる。	78.6
	二 選択	●		文の中における修飾と被修飾との関係を捉えることができるかどうかをみる。	60.8
	三 短答	●		敬体と常体との違いに注意し、適切な表現で書くことができるかどうかをみる。	68.5
	四 記述		●	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書くことができるかどうかをみる。	70.0
3	一 選択	●		様子を表す語句を、話や文章の中で使うことができるかどうかをみる。	89.5
	二 選択		●	登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができるかどうかをみる。	80.8
4	一 選択	●		接続する語句の役割を理解して、文脈の中で適切に使うことができるかどうかをみる。	74.0
	二 記述		●	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる。	19.1

学力調査Ⅰ		出題形式	知識・技能	活用	出題のねらい	正答率 (%)
1	1	(1) 短答	●		末尾の位がそろっていない、小数の加法の計算をすることができるかどうかをみる。	69.1
		(2) 短答	●		加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができるかどうかをみる。	36.7
		(3) 短答	●		除数が整数である場合の、小数の除法の計算をすることができるかどうかをみる。	63.9
		(4) 短答	●		()を用いた、四則の混合した式の計算をすることができるかどうかをみる。	68.8
	2	(1) 短答	●		スタジアムの収容人数を切り捨てて、千の位までの概数にすることができるかどうかをみる。	82.4
		(2) 記述		●	ひと月のスタジアムの入場者数の合計を、四捨五入して計算する求め方とその答えを、言葉や式を用いて記述することができるかどうかをみる。	52.2
2	1	選択	●		L字型の図形の面積の求め方を表す式の意味を、式と図を関連付けて読み取ることができるかどうかをみる。	68.8
	2	短答	●		L字型の図形の面積の求め方にあつた式を立てることができるかどうかをみる。	67.8
	3	記述		●	図2の面積と、図2の条件を変えた図形の面積とが等しいことの原因を、言葉や式を用いて説明することができるかどうかをみる。	41.1
3	1	選択	●		場面と図とを関連付けて、二つの数量の関係を理解しているかどうかをみる。	73.2
	2	短答		●	示された場面から、数量の関係を的確に捉え、□や△を用いて式に表すことができるかどうかをみる。	63.8
	3	記述		●	ある二つの数量の関係を比べるときに、倍の考え方と、差による比べ方とを比較して、倍の考え方による数値の増え方が大きくなる理由を、式と言葉を用いて記述することができるかどうかをみる。	37.8
4	1	短答	●		二次元の表に当てはまる資料の個数を求めることができるかどうかをみる。	66.2
	2	記述		●	二次元の表の数値が何を表しているかを説明することができるかどうかをみる。	69.4

学力調査Ⅱ		教科	出題形式	探究	思考の場面*			出題のねらい	正答率 (%)
					広	深	組		
1	1	社会	記述	●		●		まとめたものを基に、自分たちの生活と他県とのつながりを捉えることができるかどうかをみる。	55.5
	2	算数	記述	●		●		除法の計算を基に、大鍋で作る芋煮の量と、学校の鍋で作る芋煮の量との関係を説明することができるかどうかをみる。	15.7
	3	国語	短答	●		●		芋煮作りの課題を解決するために必要な情報を、資料から捉えることができるかどうかをみる。	44.0
	4	算数	選択	●			●	概数を用いた見積もりの結果を基に、700円で買うことができる理由を判断することができるかどうかをみる。	77.0
	5	社会	選択	●		●		スーパーマーケットの売り場の工夫を、販売の仕方を基に、消費者の願いと関連させて考察することができるかどうかをみる。	62.7
	6	理科	記述	●			●	水飲み場の蛇口から出た水が、排水口に向かって流れて集まる理由を、水の流れる面の傾きと関係付けて説明することができるかどうかをみる。	45.5
	7	理科	選択	●	●			シーツの場所を、太陽の位置の変化と影の位置の変化を関係付けて判断することができるかどうかをみる。	66.7

* 広げながら考える、深めながら考える、組み立てながら考える

(2) 結果の分析

◇…比較的できている点

◆…課題のある点

① 学力調査Ⅰ 国語

結果分析

【知識及び技能】

〈言葉の特徴や使い方に関する事項〉 正答率…73.8%

- ◇ 様子を表す語句を、話や文章の中で使うことができている。〔3一〕
- ◆ 文の中における修飾と被修飾との関係を捉えることに課題がある。〔2二〕
- ◆ 敬体と常体との違いに注意し、適切な表現で書くことに課題がある。〔2三〕

【思考力、判断力、表現力等】

〈話すこと・聞くこと〉 正答率…79.0%

- ◇ 必要なことを質問しながら話を聞くことができている。〔1四〕

〈書くこと〉 正答率…74.3%

- ◇ 段落相互の関係に注意して、文章の構成を考えることが概ねできている。〔2一〕
- ◇ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書くことが概ねできている。〔2四〕

〈読むこと〉 正答率…49.9%

- ◇ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができている。〔3二〕
- ◆ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することに課題がある。〔4二〕

指導充実・授業改善のポイント

【知識及び技能】

〈言葉の特徴や使い方に関する事項〉

○ 修飾と被修飾との関係を捉えるための指導の工夫

- ・ 修飾と被修飾との関係を捉える際には、文の中での語句の役割や語句相互の関係に気を付けて、文の構成を考えるように指導することが重要である。例えば、必要に応じて、文の中から修飾と被修飾の関係にある語句を取り上げて繰り返し指導したり、まとめて単元化して扱ったりすることなどが考えられる。日常の言語活動の中にある言葉を教材として取り上げ、その文の構成を図に表すことなども有効である。

【思考力、判断力、表現力等】

〈話すこと・聞くこと〉

○ 必要なことを記録したり質問したりしながら話を聞くための指導の工夫

- ・ 話を聞く際には、目的に応じて必要な内容を記録したり、聞いた事柄を基に分からない点や確かめたい点を質問したりするように指導することが重要である。例えば、自分が知りたいことを事前に整理する場面や、知りたいことを聞き取ることができたか、ほかに分からないところや確かめたいところはないかを、事後に振り返る場面を意図的に設定することが有効である。

〈書くこと〉

○ 考えを支える理由や事例を挙げて、分かりやすく説明するための指導の工夫

- ・ 調べたことを報告する文章を書く際には、誰に何を報告するのかといった目的を明確にするように指導することが重要である。その上で、理由や事例が必要であることを実感できるようにするために、理由や事例を挙げて書いたものと挙げないで書いたものを提示し、読み比べることが有効である。また、理由や事例を挙げないで書いた文章のみを提示し、その文章をどのように改善すればよいかについて話し合う場面を設定することも有効である。

〈読むこと〉

○ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて文章を要約するための指導の工夫

- ・ 要約する際には、文章全体の内容を正確に把握した上で、元の文章の構成や表現をそのまま生かしたり自分の言葉を用いたりするように指導することが必要である。また、目的を意識して、内容の中心となる語や文を選び、分量などを考えて文章の内容を短くまとめるよう指導することが重要である。中心となる語や文は、要約する目的に応じて変わってくるため、様々な場面で要約する機会を繰り返し設けたい。

② 学力調査 I 算数

結果分析

〈数と計算〉 正答率…63.8%

- ◇ 位に正しく着目し、切り捨てて千の位までの概数に表すことができる。〔1〕2 (1)〕
- ◆ 末尾の位のそろっていない小数の加法の計算をすることに課題がある。〔1〕1 (1)〕
- ◆ 加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることに課題がある。〔1〕1 (2)〕
- ◆ 除数が整数である場合の、小数の除法の計算をすることに課題がある。〔1〕1 (3)〕
- ◆ () を用いた、四則の混合した式の計算をすることに課題がある。〔1〕1 (4)〕
- ◆ 位に正しく着目して、四捨五入して千の位までの概数にして計算する求め方とその答えを、言葉や式を用いて記述することに課題がある。〔1〕2 (2)〕

〈図形〉 正答率…59.2%

- ◆ 式が表す意味を、式と図を関連付けて読み取ることに課題がある。〔2〕1〕
- ◆ L字型の図形の面積の求め方を式に表すことに課題がある。〔2〕2〕
- ◆ L字型の図形の面積と、その条件を変えた図形の面積とが等しいことの理由を、言葉や式を用いて説明することに課題がある。〔2〕3〕

〈変化と関係〉 正答率…58.3%

- ◇ 場面と図とを関連付けて、二つの数量の関係を捉えることが概ねできている。〔3〕1〕
- ◆ 二つの数量の関係を、□や△を用いて式に表すことに課題がある。〔3〕2〕
- ◆ ある二つの数量の関係を比べるときに、倍の考え方と、差による比べ方とを比較して、倍の考え方による数値の増え方が大きくなる理由を、式と言葉を用いて説明することに課題がある。〔3〕3〕

〈データの活用〉 正答率…67.8%

- ◆ 二次元の表に当てはまる資料の個数を求めることに課題がある。〔4〕1〕
- ◆ 二次元の表の数値が何を表しているかを説明することに課題がある。〔4〕2〕

指導充実・授業改善のポイント

〈数と計算〉

- 計算の結果を見積もり、計算の仕方を考え、結果を振り返って確かめることができるようにする指導の充実
 - ・ 正しい計算の結果を得るために、計算の結果を見積もったり、計算の性質の理解の上に立って計算の仕方を考えたり、結果を振り返って確かめたりするなどの各活動を児童自ら関連付けることができるようにすることが大切である。

〈図形〉

- 図形の構成についての見方を働かせ、示された図形の面積の求め方を解釈し、求め方について説明することができるようにする指導の充実
 - ・ 図形の合成や分解などの図形の構成についての見方を働かせ、図形の面積を、既習の求積公式を活用して求め、求め方について説明することができるようにすることが重要である。その際、数の意味や演算の意味などを、図形と関連付けて説明することができるようにすることが大切である。

〈変化と関係〉

- 数量の関係どうしを割合で比べることができるようにする指導の充実
 - ・ ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を割合を用いて比べるには、これら二つの数量が比例関係にあることを確認し、基準量を決め、基準量を1とみたときに、比較量がどれだけに当たるのかを見いだしていくことが大切である。この過程では、言葉や図などを用いて基準量と比較量を表し、割合を求めていくことが大切である。

〈データの活用〉

- 目的に応じてデータを集めて分類整理することができるようにする指導の充実
 - ・ 身の回りの事象について、その事象の因果関係や傾向を漠然と捉えるだけでなく、データに基づいて判断する統計的な問題解決の方法を知り、その方法で考察していくことが大切である。

③ 学力調査Ⅱ

結果分析

- ◇ 考える視点が示されている場合において、複数の情報を、目的に応じて整理・分析することが概ねできている。 [14, 15]
- ◇ 学習内容と生活経験とが結び付きやすい場面において、学習したことを基に、事象について自分の考えをもつことが概ねできている。 [14, 17]
- ◆ 各教科で身に付けた知識及び技能を、他教科等や日常生活で活用・発揮することに課題がある。 [11, 12, 13, 16]
- ◆ 課題解決の見通しを立てて、必要な情報を的確に取り出すことに課題がある。 [13]
- ◆ 相手や目的を意識しながら、自分の考えをまとめたり理由を明確にして説明したりすることに課題がある。 [11, 12, 16]

指導充実・授業改善のポイント

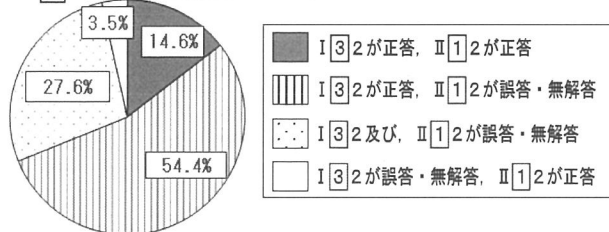
- ・ 各教科で身に付けた知識及び技能を活用・発揮する場面を、他の単元や他教科等の学習に意図的に位置付ける。
- ・ 課題を明確にして、解決することにつながる情報を、文章の中から精査する学習活動の充実を図る。
- ・ 考えを伝え合う際に、分からない点や確かめたい点を質問したり、説明の仕方を見直したりする場面を意図的に設定する。

(3) 学力調査Ⅰ・Ⅱのクロス分析【算数】

関連を図った問題における結果について

設問番号 (知識・技能・活用・探究の別)	I[3]1 (知識・技能)	I[3]2 (活用)	II[1]2 (探究)	全体に占める割合(%)
正答 誤答・無解答 の組合せ	正答	正答	正答	10.7
	正答	正答	誤答・無解答	39.8
	正答	誤答・無解答	誤答・無解答	20.2
	正答	誤答・無解答	正答	2.6
	上記以外の組合せ			26.8
正答率(%)	73.2	63.8	15.7	

I[3]1が正答の児童について



学力調査I[3]1と[3]2,及び学力調査II[1]2で正答している児童の、学力調査IIの平均正答率は79.1%であり、全児童の、学力調査IIの平均正答率52.5%を上回っている。

結果分析

- ・ 学力調査I[3]1において、場面と図とを関連付けて、二つの数量の関係を理解できた児童のうち、[3]2において、示された場面から数量の関係を的確に捉え、□や△を用いて式に表すことができた児童は69.0%である。さらに、学力調査II[1]2において、除法の計算を基に、二つの数量の関係を適切に説明できた児童は14.6%である。具体的な場面において、二つの数量の関係を適切に捉え、関係を式に表したり説明したりすることに課題がある。

指導充実・授業改善のポイント

- ・ 数量の関係を捉える学習は、各学年の、多くの単元や内容が関連している。他教科等や生活場面において、課題解決に数量の関係を活用する場面を設定し、そのよさを実感できるようにする。
- ・ 基準量、比較量、割合の関係を基に判断した理由を説明する際には、判断の根拠を、具体的な数量を示しながら説明することを大切にする。